

第118番組審議委員会議事録

日時：令和7年9月17日（水）13時30分～

場所：市民活動センター/コミュニティ f（富士市吉原2丁目10番20号）

1. 委員総数8名

2. 出席人数6名

3. 出席委員の氏名

吉野涉 委員長・赤池英明 副委員長・長橋順 副委員・稲葉美津恵 委員・渡邊朱美 委員・内藤祐樹 委員

4. 放送事業者出席者名

小沢教司 代表取締役社長

山本茂 放送局長

山本局長：本日はお集りいただき、ありがとうございます。今日は118回目の番組審議となります。皆様よろしくお願ひ致します。それでは番組審議委員長の吉野様、一言よろしくお願ひ致します。

吉野委員長：皆さん、こんにちは。まだまだ暑い日が続きますが、本日の審議もしっかりと行い、この暑さを吹き飛ばして秋の風を感じられるような時間にしたいと思います。本日もよろしくお願ひします。

山本局長：吉野様ありがとうございます。続いて弊社小沢からご挨拶させていただきます。

小沢社長：本日はお暑い中、多くの委員の皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。忌憚のないご意見をぜひよろしくお願ひいたします。

山本局長：まずは前回の審議についてご報告します。前回は『うまいラジオ』内の「うまいベストショット」というコーナーをご審議いただきました。こちらはInstagramと連動したグルメレポートのコーナーで、SNSとの連動という新しい試みは高く評価をいただきました。一方で、馴染みのない方には分かりにくいというご意見もありましたので、その点は改善しつつ、今後も制作者の習熟度に応じてSNSとの連携を積極的に進めていきたいと考えております。

続きまして、今回の審議番組です。今回は毎週金曜日の午前中に放送している『吉原なつかし堂』という番組内の「俳句投句（はいくとうく）」という俳句コーナーです。昔、番組審議委員会でも取り上げさせていただきましたが、それからだいぶ月日が経ちましたので、再度ご審議をお願いしたいと考えております。長年続いている人気コーナーですが、最近の放送をお聞きいただき、ご意見を伺えればと思います。今日ご審議いただく放送は9月12日放送分で、静岡県俳句協会の石井先生にリスナーから投稿された俳句の講評をいただきました。9月の季語は「良夜（りょうや）」「蟬（こおろぎ）」「曼殊沙華（まんじゅしゃげ）」でした。

番組審議

- ・ 審議番組 吉原なつかし堂 内「俳句投句」

(15分程度)

- ・ 放送日時 令和7年9月12日 金曜日 10:05～
- ・ 出演 ナビゲーター：清水やすこ
アシスタント：片平有美
講評：石井 小寒（しょうかん）
- ・ 番組編成制作方針、説明
- ・ 質疑応答

検聴15分程

山本局長：ご検聴ありがとうございました。それでは審議をお願い致します。ここからは吉野委員長よろしくお願ひ致します。

吉野委員長：はい。まず、私からお話しさせていただきます。俳句を募集して紹介するというシンプルな構成が非常に聞きやすく、金曜の朝にふさわしい爽やかな気持ちになれる良いコーナーだと感じました。朝活にもなりそうですよね。その上で提案ですが、もっと多様な層からの俳句を聞いてみたいです。例えば、市内の小中学生や、建設業、飲食業といった様々な職業の方から、それぞれの目線で詠まれた句が集まると、コーナーの幅が広がって面白くなるのではないのでしょうか。また、講評をされている俳句協会の先生方の作品もぜひ聞いてみたいと思いました。小学生から国語で俳句の授業などもありますのでそこからめても良いかもしれないですね。赤池副委員長はいかがでしたか？

赤池副委員長：じっくりと俳句に触れる、良い時間でした。番組としても質が高く、また聞きたいと思える内容です。ただ、自分が投稿したいと感じる一般のリスナーが俳句を投稿するには、まだ少しハードルが高いように感じます。投稿している方は何度も出すのですが、出したことのない人が最初の一步を踏み出すのは勇気がいらいます。メールで送れるなど、もう少し気軽に応募ができる工夫があると、さらに良くなると思いました。投稿しやすい何か・・・があると思います。小さい時に俳句を勉強した事がある人にとって、懐かしさと新鮮さがあつたと思います。

吉野委員長：ありがとうございます。続いて稲葉さんいかがですか？

稲葉委員：私も何十年ぶりに俳句を聞きました。そのくらい俳句と縁がありませんでした。ただ、講評の先生の語り口がとても優しく、「これなら自分でも作れるかもしれない」と思わせてくれますね。また、それをナビゲーターがうまく話を繋いでいるのも良いと感じました。聞いていて、また車の中などで指を折りながら句を作ってみようかな、という気持ちになりました。ある程度の年齢になると、言葉が5・7・5調になると聞きますので、そういった人にチャレンジして貰ってもよいかもしれませんね。

吉野委員長：ありがとうございます。渡邊さんはいかがですか？

渡邊委員：まるで国語の授業を受けているようで、大人になっても国語力を高めたいと思える番組でした。季語を通じて俳句を聴き、秋を感じることができると、とても良いと思います。委員長がおっしゃったように、市内の小中学校と連携するのも面白いかもしれません。今、子供たちはタブレット授業を進めていますから、国語力向上のためにこの番組を活用し、タブレットから投稿してもらおう、といった試みも面白いのではないのでしょうか。ラジオに触れる良い機会にもなりそうです。

小沢社長：現在の俳句投句の投稿はメールでもきていますか？

山本局長：ハガキ・メールの順にきていると感じています。

渡邊委員：今は小学校中学校でタブレットを使っているのです、そこと上手く繋がれると面白いかもしれませんね。

吉野委員長：ラジオに触れる良い機会かもしれませんね。

渡邊委員：ラジオに触れる機会って今ホントにないですね。

今テレビでも俳句の添削をする番組がありますよね。どこかの小学校の国語の先生が同じようなことをやって毎回俳句をつくらせているそうなんです、国語力が高まっているという話を聞きました。そういう意味で良いきっかけになればと思いました。

吉野委員長：内藤さんはいかがですか？

内藤委員：このコーナーの最大の魅力は、石井先生の添削・講評が「千本ノック」のようで、非常に面白い点だと思います。投稿された句そのものよりも、先生が的確な言葉で句を素晴らしいものに生まれ変わらせる過程が、俳句の面白さを教えてくれます。正直なところ、先生の存在がこのコーナーの質を大きく左右していると思うので、もし担当が変わった場合にどうなるのか、少し気になりました。それでも、この先生の講評がある限り、どんな方からの投稿でも面白くできる、ポテンシャルがあると感じました。実際私も、俳句って面白いんだろうなと教えてもらいました。個人的に私は「X」をやっている、140文字という縛りがある中でやっているので、「X」などSNSをやっている人にも受け入れられそうに感じました。

吉野委員長：ありがとうございます。長橋さんはいかがですか？

長橋委員：私は子供の頃から俳句が苦手な遠い存在だったのですが、この番組は非常に聞きやすかったです。内容も分かりやすかったです。最初、どんな句なのか分からない内容でしたが、ナビゲーターの方が句の背景を説明し、その上で先生が分かりやすく添削してくれるので、内容がすっと入ってきました。若い世代からの投稿もあるようで、幅広い層に支持されている良い番組だと感じます。およそ17年の長寿コーナーだけあって、毎週10～15句を紹介している。俳句好きがいたり、投稿された俳句にも「おばあちゃん」という単語があったように、小さい子供も投稿しているんだなと思いました。

吉野委員長：毎月季語を教えてくれるのも、知らない言葉を調べようという知的好奇心に繋がって良いですね。良夜・曼殊沙華がどんなものなのか、調べてしまいました。他皆さんありますでしょうか？

赤池委員：ちなみに、投稿数というのはどのくらいあるのでしょうか？

山本局長：正確な数字は担当者でないと分かりませんが、他の番組と比較してもダントツで多いです。全国から、この「俳句投句」にだけ投稿してくださる熱心なファンの方もたくさんいらっしゃいます。

赤池委員：そうなんです。私自身、このコーナーは続けて欲しいなと感じているので、投稿し続けてくれる何か、環境なのか、コーナーの質をより良くするなど続けて欲しいと思いますね。

吉野委員長：例えば、放送で選ばれなかった句を Instagram などで紹介するのはどうでしょう。応募者のモチベーションにもなりますし、SNS への誘導にも繋がりそうです。

稲葉委員：ナビゲーターの清水さんも、投稿は週に一人1句って仰っていましたからね。他の何かで発表してあげると喜ぶますね。

山本局長：ありがとうございます。参考にさせていただきます。過去には小学生からの投稿があったこともありますので、今後も幅広い層からご参加いただけるよう努めます。

吉野委員長：ありがとうございます。本日は以上で終わりにしようと思います。

山本局長：ありがとうございました。

小沢社長：次回の放送は11月26日水曜日に開催でお願い致します。本日はありがとうございました。

議事録の公表：令和7年10月1日 自社ホームページにて公表